
第102回 学長定例記者会見

日時：平成30年9月20日（木）10:00～10:30

場所：広島大学 東広島キャンパス 工学部A1棟1階 141会議室

※テレビ会議システムは実施しない

※Ustream およびYouTube による録画配信は実施しない

【発表事項】

1. 広島大学防災・減災研究センターを設置します
2. 広島大学脳・こころ・感性科学研究センターを設置します
3. 広島大学モンゴル研究センターを開設しました
4. 広島大学森戸国際高等教育学院を設置します

【お知らせ】

1. 文部科学省教育関係共同利用拠点に臨海実験所が認定されました
2. 第6回広島大学女性活躍推進賞「メタセコイア賞」の候補者を募集します
3. 体育会剣道部が中四国学生剣道優勝大会で男女とも優勝しました
4. 広島大学工学部新第一類発足シンポジウムを開催します

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時：平成30年10月下旬

場所：広島大学 霞キャンパス

平成 30 年 9 月 20 日

広島大学防災・減災研究センターを開所します

近年我が国においては、東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨、広島県内での平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害など、大規模な自然災害が頻発しています。また、平成 30 年 7 月豪雨災害は、広島県を中心に中国地方に甚大な被害をもたらしました。

本学では、平成 30 年 7 月 11 日に、広島大学平成 30 年 7 月豪雨災害調査団を結成し、学内の防災研究分野の専門家の明確化と研究者同士のネットワークの拡充を行い、被災状況の調査・分析を行ってきたところです。

このたびの災害の特徴は、土石流や洪水氾濫などの複合的な要因によって、被害がさらに拡大する『相乗型豪雨災害』にあり、これまでの豪雨災害の防災・減災システムの弱点・限界を浮き彫りにしたといえます。

このたびの経験を踏まえて、広島大学では、従来の防災学・減災学では対応できない豪雨災害などに対応するための新たな学際的研究集団組織として「広島大学防災・減災研究センター（HRRC）」を設置し、相乗型豪雨災害を中心テーマとした世界レベルの研究拠点を構築します。

防災・減災研究センターでは当面、（１）相乗型豪雨災害のメカニズムの解明と、災害を未然に防ぐための早期検知システム等の開発（２）災害に強い社会システム、インフラ、ライフラインの整備に向けた研究（３）適切な避難行動ができるよう心理学的アプローチからの分析、の 3 分野での研究を中心に進めてまいります。また、地域の特性などに対応した災害医療にも取り組みます。

これにより、できる限り被害の発生や拡大を防ぎ、被災からの早期復旧が可能となるよう、実践的な研究で地域への貢献を果たしていきたいと考えています。

今後は、国内外の有力研究機関とネットワークを形成し、災害科学に関する最先端の学際研究を目指します。

【お問い合わせ先】

広島大学 社会産学連携室 社会産学連携グループ 担当：三戸
TEL：082-424-5871
E-mail：sangaku-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp

広島大学防災・減災研究センター

Hiroshima University Resilience Research Center

設置構想

1. 設置目的

近年我が国においては、東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨、広島県内での平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害など、大規模な自然災害が頻発している。

また、平成 30 年 7 月豪雨災害は、広島県を中心に中国地方に甚大な被害をもたらした。この災害は土石流、斜面・山腹崩壊などによる土砂災害と洪水および内水氾濫によるものが複合的に発生し、広範囲にわたって被害をもたらした「相乗型豪雨災害※」であり、これまでの豪雨災害の防災・減災システムの弱点・限界を浮き彫りにしたといえる。

このたびの経験を踏まえて、従来の防災学・減災学では対応できない豪雨災害などに対応するための新たな学際的研究集団組織として「広島大学防災・減災研究センター（HRRC）」を設置し、相乗型豪雨災害を中心テーマとした世界レベルの研究拠点を構築する。

さらに、国内外の有力研究機関とネットワークを形成し、災害科学に関する最先端の学際研究を展開する。

※ここで相乗型豪雨災害とは、土石流や洪水氾濫などの複合的な要因によるインフラ、経済、人的被害が相互に影響することで被害が拡大する豪雨災害を意味する。

2. 経緯

本学では、2011 年度に広島大学災害軽減プロジェクト研究センター（～2021 年 3 月）を設置し、研究者の情報の共有化などで地域防災ネットワークの整備を進めてきた。

また、2018 年 7 月 11 日には、広島大学平成 30 年 7 月豪雨災害調査団を結成し、全体会議及び報道機関向け報告会を開催して、学内の防災研究分野の専門家の明確化と研究者同士のネットワークの拡充を開始したところである。

今後、さらに広島大学が防災・減災における研究を進め、災害軽減などでより実践的に社会貢献していくためには、研究者の連携を図り、恒常的な組織活動を行うための拠点が

必要であり、本センターを設置する。

3. 本センターの方向性

本センターでは、

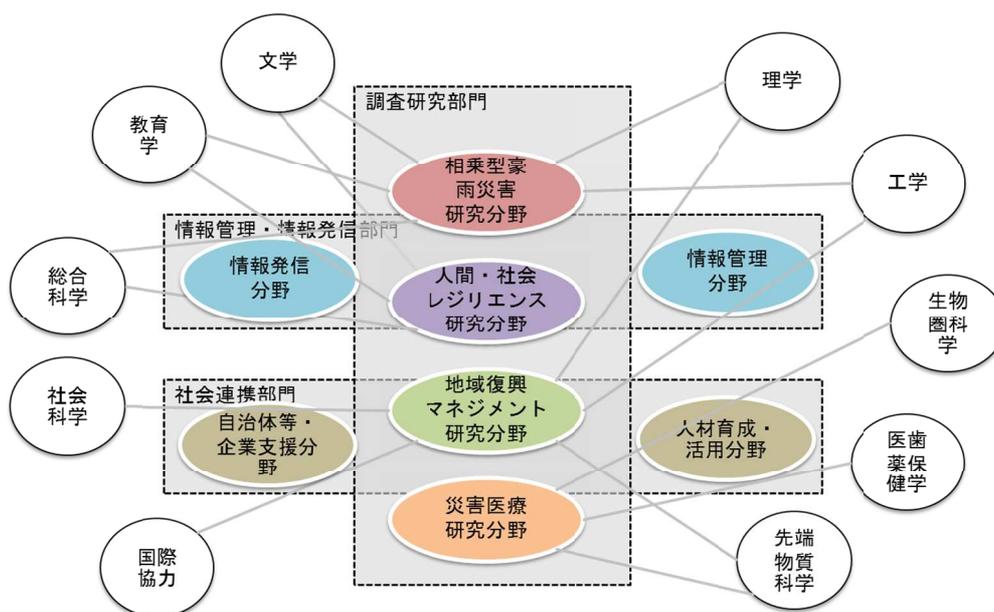
- (1)西日本で頻発する相乗型豪雨災害の実態に基づく防災・減災技術の再構築
- (2)復旧・復興事業における都市の耐災害性能向上と多重フェイルセーフ化
- (3)「土砂洪水氾濫」発生メカニズムの解明と次世代早期検知技術の開発
- (4)相乗型豪雨災害時に人間・社会にかかるストレスへの対応とレジリエンスに関する研究
- (5)相乗型豪雨災害に対応した災害医学・医療の確立
- (6)地域・都市再生と語り継ぎのためのアーカイブスの構築

という具体的な6つの研究課題に取り組み、相乗型豪雨災害への対策・危機対応に関して、先導的な役割を果たす。

国、自治体、企業等とあらゆる面で連携・協働を強化し、防災共同研究講座を立ち上げ、情報発信・人材育成を行うなど、研究成果がスピード感を持って実践・検証につなげていける体制を構築する。

さらに、本センターの研究成果は、住民との対話を通じてそれぞれのニーズに応じてカスタマイズされ、自然災害に対する国民の防災・減災の力、復興への力へと還元される。

4. 広島大学防災・減災研究センターの構成



(1) 組織

調査研究部門、情報管理・情報発信部門、社会連携部門で組織し、センター長、センターに配属の教員及びその他必要な職員を配置する。

(2) 業務

1) 調査研究部門

- ① 相乗型豪雨災害研究分野
- ② 人間・社会レジリエンス研究分野
- ③ 地域復興マネジメント研究分野
- ④ 災害医療研究分野

2) 情報管理・情報発信部門

- ① 情報発信分野
- ② 情報管理分野
- ③ 災害アーカイブ分野

3) 社会連携部門

- ① 自治体等支援分野
- ② 企業支援分野
- ③ 人材育成・活用分野

5. 本センターの特色

防災・減災という面で、中国地方における大きな課題は、この地域の土砂災害危険箇所が極めて多いことにある。土砂災害危険箇所は全国で約 52 万 5 千箇所あるとされているが、広島県は 3 万 2 千箇所と全国で最も多くなっており、中国地方全体では 9 万 5 千箇所と全国の 18% が集中している。これは、崩壊しやすい風化した花崗岩からなる山地が海岸近くまで迫る地形環境のもと、瀬戸内海に面した小規模な平野部や山間の小盆地に都市や集落が成立し、発展してきた地理的・歴史的背景が大きく影響している。

一方、近年では、大都市圏が外縁的に広がるとともに、高度に発達した交通などのインフラによって都市間が結びつきを強め、全国規模の物流システムや人的流動によって生活や産業活動が支えられる複雑な社会経済システムとなっている。このような状況下で、豪雨によって土砂災害と洪水災害が複合的に生じた場合、その被害は直接的な災害発生場所のみにとどまらず、交通や水道などのインフラを遮断することで被害は相乗的に拡大し、広域的で長期的なものとなる。

特に、広島県では都市間交通が狭小な谷底や急な斜面を縫うように橋梁や土盛り、トンネルなどでつながっており、土石流、斜面崩壊、河岸侵食、橋梁流出、溢水・越水氾濫

などにより交通の遮断が発生しやすい場所となっている。また、広島市を流れる太田川から水系を越えて、離島にまで配水する広域的な上水道システムでも、交通と同様に厳しい地形環境のなかで整備されている。西日本豪雨災害で生じた広島県南部の多面的で長期的な被害は、現代日本社会の起こりえる相乗型豪雨災害の典型例といえることができる。

地球温暖化が指摘され、豪雨災害が増加する傾向のなか、相乗型豪雨災害に焦点をあてて現代社会の脆弱性を踏まえたリスク管理とレジリエンスに向けた防災システムの構築は現代日本社会の喫緊の課題であるといえる。

本センターは、①このような風土、地形、文化の背景のもとに発生する特徴的な自然災害である「相乗型豪雨災害」を主な研究対象とし、②全学から関係する研究者を集結させ、分野融合型の調査研究部門を設置して、③調査研究成果を地域や社会に情報として還元し、各種政策の策定や実施に貢献することを目的に設置する。

平成 30 年 9 月 20 日

広島大学脳・こころ・感性科学研究センターを設置します

広島大学は 10 月 1 日、脳・こころ・感性科学研究センターを設置します。

本センターでは、人間の本質である“脳・こころ・感性”について、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など、幅広い分野の視点から融合的に探求し、「感性科学」の学問体系の確立をめざします。

近年の工学、情報科学などの科学技術の進歩により、物質的には豊かになり便利になってきました。

一方で情報化とグローバル化による競争社会はストレスを増大させ、いじめ、ひきこもり、うつ病などこころの問題が顕在化し深刻な事態となっています。

これまで脳の働きはブラックボックスであり、科学的にアプローチすることが困難でしたが、最近の脳科学研究の進歩により、脳機能を可視化することが可能となりました。

広島大学では、2011 年から文部科学省の事業としてスタートし、現在は医療研究開発機構（AMED）が進めている、脳科学研究戦略推進プログラムにおいてうつ病研究拠点の代表機関に指定され、感性のネガティブな側面である憂うつ感を主症状とするうつ病の病態解明、客観的診断法および革新的治療法の開発研究に取り組んでいます。また、2014 年からは、文部科学省・革新的イノベーション創出プログラム（COI）において採択された「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」で、ポジティブな感情の可視化技術を開発しています。

本センターでは、それらの研究をさらに発展させ、衣・食・住・医療・教育に関連するものづくりに活用して産業イノベーションを生み出すため、「こころ・感性」という曖昧だった概念を脳科学的に定義し解明し、“憂うつ感”や“ワクワク感”を見える化する技術の開発をめざします。また、大学院改革の一環として、これらの基礎研究を社会実装につなげることでできる若手人材を育成します。

これまで、感性のネガティブからポジティブまでの脳科学研究を展開している研究拠点は国際的にも存在せず、広島大学がこの領域のグローバル拠点となり得ることが期待できます。

【お問い合わせ先】

広島大学社会産学連携室 特任教授
山脇 成人
〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号
E-Mail:yamawaki@hiroshima-u.ac.jp

図1. 脳・こころ・感性科学研究センター(案) Brain , Mind and KANSEI Sciences Research Center

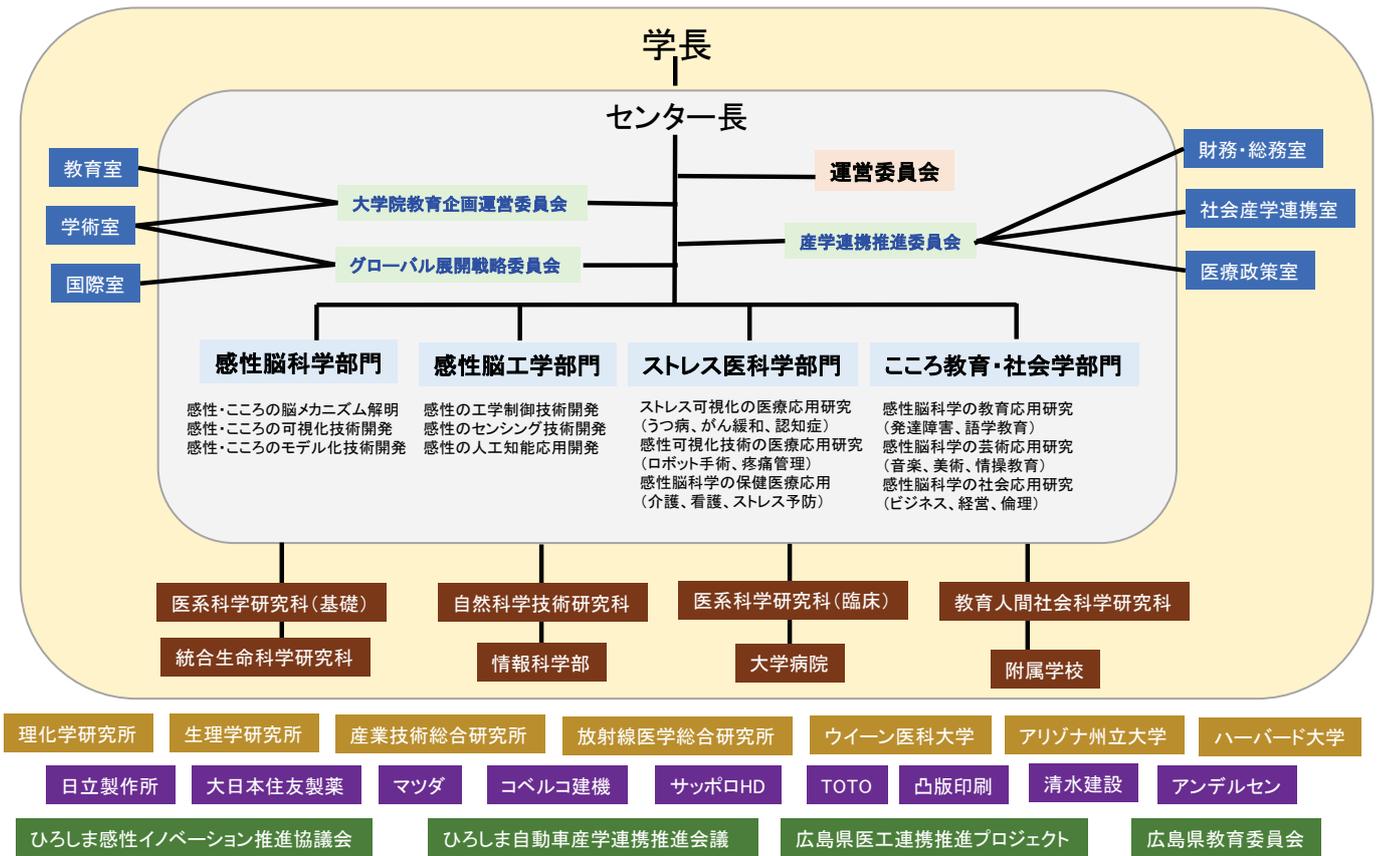
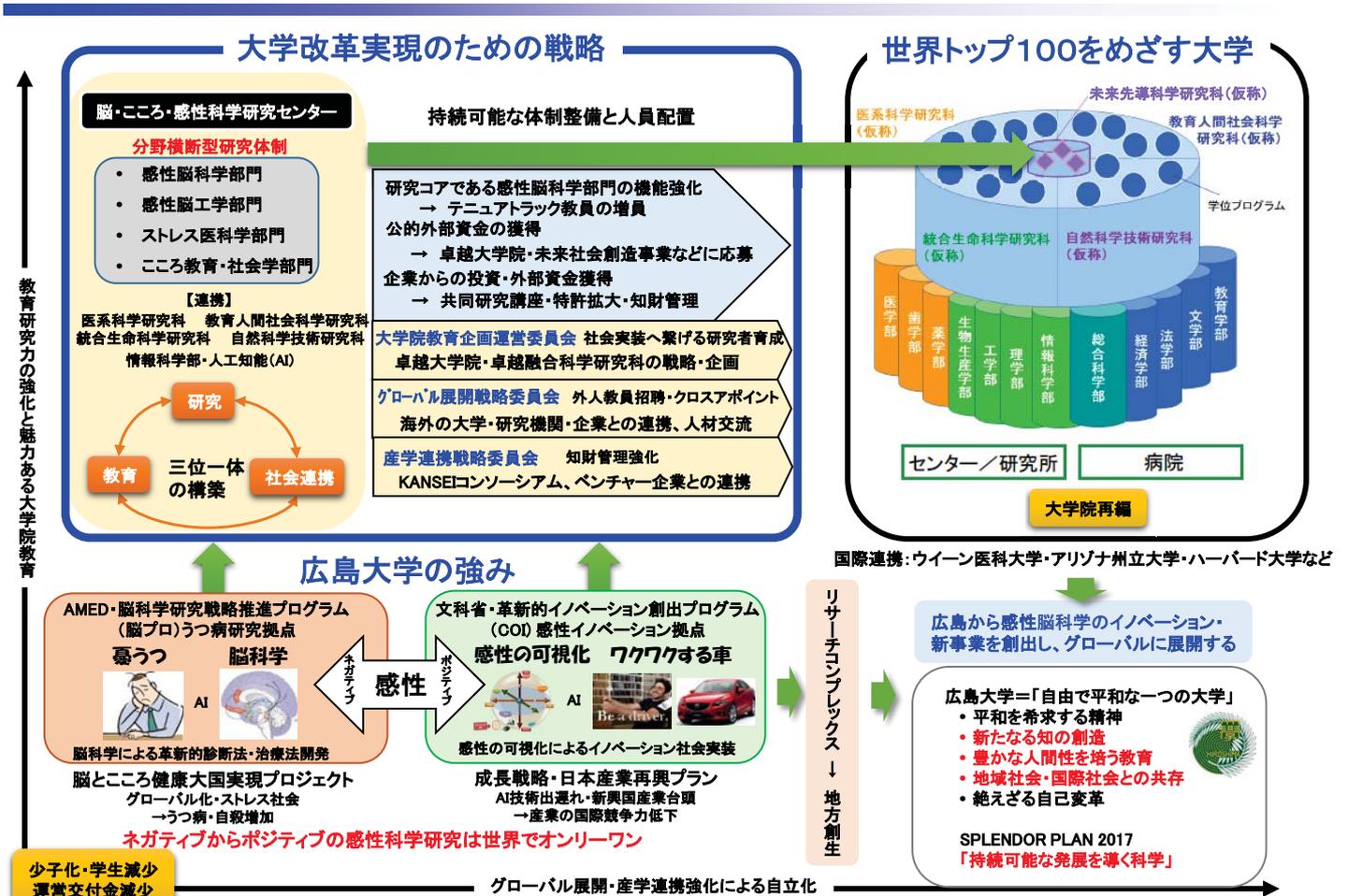


図2. 脳・こころ・感性科学研究センター設置による持続可能な広島大学改革へのシナリオ



平成30年9月20日

広島大学モンゴル研究センターを開設しました

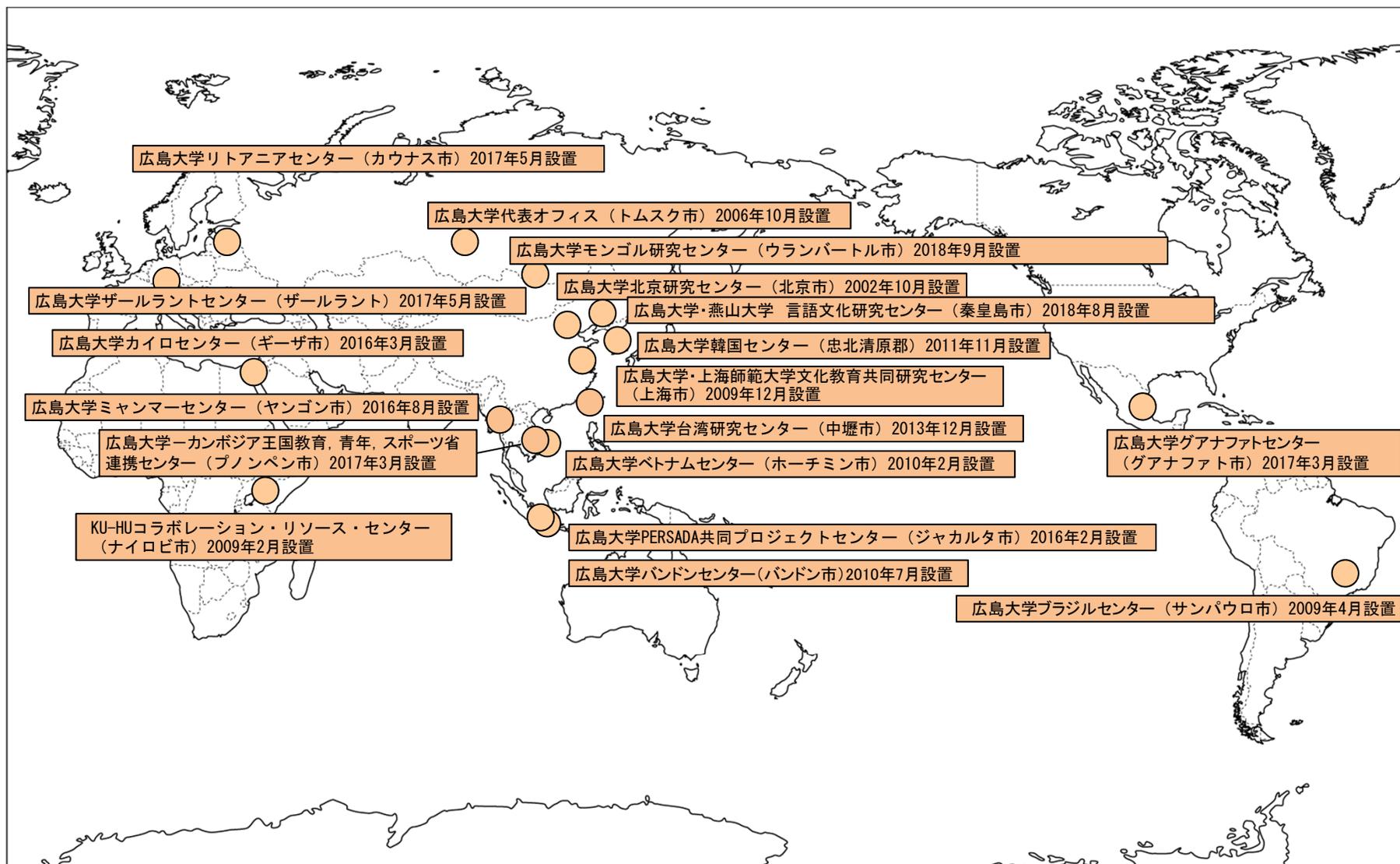
2018年9月3日、広島大学はモンゴル・ウランバートル大学内に、モンゴルでは初めての海外拠点となる「広島大学モンゴル研究センター」を開設しました。これで本学の海外拠点は、14カ国、18ヶ所となりました。

広島大学とウランバートル大学は、2016年11月に大学間交流協定を締結し、広島大学が実施する「日本語日本文化特別研修」でウランバートル大学の学生を受け入れるなど、交流を深めてきました。

本センターの開設を機に、モンゴルでの日本語スピーチコンテストの開催や、広島大学からの学生・教職員派遣等、今後両大学間の交流を更に拡大していきます。

【お問い合わせ先】

国際室 国際交流グループ 岡田 泰司
TEL:082-424-6042 FAX:082-424-6179



広島大学海外拠点設置状況 <15カ国/地域 18拠点> (2018年9月)

平成 30 年 9 月 20 日

広島大学森戸国際高等教育学院を設置します

平成 30 年 10 月 1 日、広島大学は、学内共同教育研究施設である「国際センター」を改組し、「森戸国際高等教育学院」を設置します。

国際センターは、平成 22 年に留学生センター（平成 2 年設置）の改組により設置され、留学生への日本語教育や留学交流事業を推進してきました。平成 28 年度には、初代広島大学長（元文部大臣）森戸辰男氏の名を冠した「森戸国際高等教育学院 3+1 プログラム」を新たに開始するとともに、日本語教育カリキュラム再編を進めることにより、多様な留学生の飛躍的増加を目指してきました。

森戸国際高等教育学院は、日本語・日本文化教育の全学的な教学マネジメントを実現するとともに、海外における日本語教育の高度化に貢献することにより、優秀な留学生の獲得を目指します。

また、中国・四国地域の大学との同分野のネットワークを構築・強化することにより、地域に日本語・日本文化を理解する高度専門人材を輩出し、高等教育や産業の発展に繋げていきます。

併せて、これまで国際センターで実施してきた学生交流プログラムをより効率的・効果的に実施し、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成に取り組みます。

【お問い合わせ先】

国際室国際交流グループ 中家（なかいえ）
TEL:082-424-6046 FAX:082-424-6179



文部科学省教育関係共同利用拠点に臨海実験所が認定されました

文部科学省が公募する平成30年度「教育関係共同利用拠点」に広島大学大学院理学研究科附属臨海実験所が認定されました。

「教育関係共同利用拠点」とは、多様化する社会と学生のニーズにこたえつつ質の高い教育を提供していくため、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことを目的として、平成21年9月に施行された文部科学大臣の認定制度です。

「臨海実験所」の拠点事業は、平成30年9月5日から平成35年3月31日までの5年間です。

■認定後の取組み概要

- 1) 教育・研究活動：臨海教育施設を保有しない広島県内の他大学へ、安定的な投宿型の実習・演習（単位互換履修科目）を提供する。また、既存の臨海実習の発展的再編成を行い、特色のある実習科目を他大学生に提供し、教育活動を一層推進させる。
- 2) 連携強化活動：他大学との連携をこれまで以上に強化し、本実験所の有効活用（広域化）及び教育ネットワークの発展的拡大を推進する。
- 3) 国際貢献活動：国際サマースクールの開催や英語による実習を実施し、教育の国際化を図る。
- 4) 社会貢献活動：地方自治体との教育的共同プロジェクトの展開を促進する。また、教育研究フォーラムを定期的を開催し、小・中・高等学校の理科教員等に広く成果を還元する。

■本実験所の概要

本実験所は、広島大学メインキャンパスから東に約60km、本州と四国を結ぶ「しまなみ海道」の本州側最初の島である尾道市向島に位置する。昭和8年に設立された伝統と歴史を誇る教育・研究施設で、現在は広い敷地の中に教育研究棟2棟と宿泊棟1棟を有している。宿泊定員は最大33名であり、清潔で快適な男女別のシャワー設備、洗濯設備、乾燥機、トイレが完備されている。

【お問い合わせ先】

理学研究科支援室 川石
TEL: 082-424-7305
Mail: ri-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp



平成30年9月20日

第 6 回広島大学女性活躍促進賞
「メタセコイア賞」の候補者を募集します

広島大学は平成25年度に、女性自ら先導し、あるいは女性の活躍の場を広げることによって、社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を顕彰するため、広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を創設しました。

今年度の候補者を下記の要領で募集いたします。自薦・他薦にかかわらず、多くのご応募をお待ちしております。

記

■募集締切

平成30年11月16日（金）※当日消印有効

■授与の基準

- (1) 男女共同参画の推進及び女性の活躍促進において先進的な取組を行っていると思われる中国四国地域の個人又は団体
- (2) 男女共同参画社会の構築において顕著な研究業績を挙げた、又は指導的働きをしたと思われる中国四国地域の研究者
- (3) 女性の活躍を支援したと思われる個人又は団体
- (4) 自ら活力向上を先導した女性

■応募方法

以下の書類を郵送またはメールにて提出してください。

- (1) 応募申請書（ホームページよりダウンロードしてください。）
- (2) 活動内容、代表的な論文、著書、報告書などをまとめたものや成果資料等（形式は自由です。）
 - 自薦・他薦は問いません。
 - 提出された書類等は、原則として返却しません。
 - 後日、参考資料の追加提出をお願いすることがあります。
 - 選考委員会において候補者を選考し、受賞者を決定いたします。
 - 授与式は、受賞年度に開催されるシンポジウム等において行います。

■提出先

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2

広島大学男女共同参画推進室（人事グループ男女共同参画担当宛て）

Mail: syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL: 082-424-4428

ホームページ: <http://metasequoia.hiroshima-u.ac.jp/>

【お問い合わせ先】

広島大学学術室研究企画室 久保琢也

Mail: ura-women@office.hiroshima-u.ac.jp

Tel: 082-424-4507

平成30年度

第6回 広島大学女性活躍促進賞 「メタセコイア賞」 募集

広島大学旧東千田キャンパスに、美しい並木として四季に彩りを添えていたメタセコイア。フェニックスと並んで本学のシンボリック存在で、生きた化石として世界的に有名なこの樹木は、あらゆるところから芽吹く旺盛な生命力とまっすぐに育つ若木の成長の早さが特徴です。このようなメタセコイアにちなみ、女性が個性と能力を存分に発揮し、世界中で力強く活躍することを願って、広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を設立しました。今年度の候補者を以下の要領で募集いたします。

■ 募集締切

平成30年11月16日(金) **当日消印有効**

■ 授与の基準

1. 男女共同参画の推進及び女性の活躍促進において先進的な取組を行っていると思われる中国四国地域の個人又は団体
2. 男女共同参画社会の構築において顕著な研究業績を挙げた、又は指導的働きをしたと思われる中国四国地域の研究者
3. 女性の活躍を支援したと思われる個人又は団体
4. 自ら活力向上を先導した女性

■ 応募方法

以下の書類を郵送またはメールにて提出してください。

- ① 応募申請書(ホームページよりダウンロードしてください。)
- ② 活動内容、代表的な論文、著書、報告書などをまとめたものや成果資料等(形式は自由です。)

- ✓ 自薦・他薦は問いません。
- ✓ 提出された書類等は、原則として返却しません。
- ✓ 後日、参考資料の追加提出をお願いすることがあります。
- ✓ 選考委員会において候補者を選考し、受賞者を決定いたします。
- ✓ 授与式は、受賞年度に開催されるシンポジウム等において行います。

【提出先】

〒739-8511

広島県 東広島市 鏡山1-3-2

広島大学 男女共同参画推進室

(人事グループ男女共同参画担当宛て)

メールアドレス: syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp

ホームページ: <http://metasequoia.hiroshima-u.ac.jp/>



平成30年9月20日

体育会剣道部が中四国学生剣道優勝大会で男女とも優勝しました

9月2日（日）に岡山県総合文化体育館で第65回中四国学生剣道優勝大会（団体戦）及び第45回中四国女子学生剣道優勝大会（団体戦）が開催され、男女ともに優勝を果たしました。男子は2年ぶり16回目、女子は3年連続17回目の優勝となります。

男子は10月28日（日）に大阪市立中央体育館で開催の全日本学生剣道優勝大会へ、女子は11月11日（日）に春日井市総合体育館で開催の全日本女子学生剣道優勝大会への切符を手に入れました。



第65回中四国学生剣道優勝大会（団体戦）
で優勝した男子選手と師範と監督



第45回中四国女子学生剣道優勝大会（団体戦）
で優勝した女子選手と師範と監督

【お問い合わせ先】

広島大学体育会剣道部監督 大石原 匠
TEL：082-257-5973 FAX：082-257-5615



平成30年9月20日

広島大学工学部新第一類発足記念
シンポジウムを開催します

平成30年9月28日に広島大学工学部新第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）発足記念シンポジウム『輸送機器の研究・開発と教育のグローバル拠点を目指して』を開催いたします。

当シンポジウムでは、広島大学工学部の改組（平成30年4月実施）に伴い、4つの教育プログラムから成る新たな第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）が誕生しました。当シンポジウムでは構成が一層強化された新第一類を産業界や官庁をはじめ皆様に広く知っていただくため、新第一類の概要と特徴、新第一類における産学共同研究の例を紹介するとともに、新第一類のシーズ・研究設備と産業への適用事例についてもご紹介いたします。

また、特別講演では産業界より新第一類へのメッセージをいただき、さらに、各官庁（中国経済産業局、中国運輸局、広島県）からも来賓・パネリストをお迎えして、今後の産学官連携の加速と研究・開発および教育のグローバル拠点の方向性について議論いたします。

交流会を除くシンポジウムの参加は無料で、一般の方にもご参加いただけます。皆様のご来場を心からお待ちしております。

記

日 時：平成30年9月28日（金）13:00～17:45

会 場：広島ガーデンパレス2F 鳳凰の間

広島県広島市東区光町1丁目15-21

プログラムは裏面に記載

参加申し込みは以下 URL からご登録ください。

<http://naoe.hiroshima-u.ac.jp/registration/eng1kickoff/>

広島大学工学部新第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）発足記念シンポジウム『輸送機器の研究・開発と教育のグローバル拠点を目指して』

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:05 新第一類の概要と特徴（土井康明教授）

13:20 新第一類における産学共同研究の例

- ・「広島大学革新的ものづくり研究拠点活動の成果と今後の取り組み」（篠崎賢二教授）
- ・「造船分野での共同研究と企業人材育成の事例」（安川宏紀教授）
- ・「次世代自動車技術共同研究講座 ARC: Automotive Research Collaborative laboratory」（西田恵哉教授）
- ・「産官学連携による中小造船の騒音対策」（竹澤晃弘准教授）

14:40 新第一類のシーズ・研究設備と産業への適用事例

- ・新第一類を構成する「機械システム」「輸送システム」「材料加工」「エネルギー変換」の各プログラムより、保有するシーズ・研究設備や産業への適用事例をご紹介します

16:00 特別講演「広島大学とマツダ株式会社の連携のこれまでとこれから ～新第一類への期待～」（マツダ株式会社 素利孝久特別顧問）

16:40 パネルディスカッション「新第一類の目指す方向性についてー産官学の協奏によるサステナブルな発展の実現のためにー」

17:40 閉会挨拶（北村充教授）

18:00～20:00 交流会（参加費：5,000円）

【お問い合わせ先】

新第一類発足記念シンポジウム実行委員会
e-mail:eng1kickoff@ml.hiroshima-u.ac.jp



輸送機器の研究・開発と教育の グローバル拠点を目指して

趣旨と概要

この度、広島大学工学部の改組（平成30年4月実施）に伴い、4つの教育プログラムから成る新たな第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）が誕生しました。当シンポジウムでは、構成が一層強化された新一類を産業界や官庁をはじめ皆様に広く知っていただくため、新一類の概要と特徴、新一類における産学協同研究の例を紹介するとともに、新一類のシーズ・研究設備と産業への適用事例についてもご紹介致します。また、特別講演では産業界より新一類へメッセージをいただき、さらに、各官庁（中国経済産業局、中国運輸局、広島県）からも来賓・パネリストをお迎えして、今後の産官学連携の加速と研究・開発および教育のグローバル拠点の方向性について議論致します。

日時：2018年9月28日 金曜日
13:00～17:45（開場：12:30）

場所：広島ガーデンパレス2F
鳳凰の間
（広島市東区光町1丁目15-21）

参加費：無料（要登録）
※ 交流会参加は有料(5,000円)

参加登録：下記URLよりご登録下さい。
<http://naoe.hiroshima-u.ac.jp/registration/eng1kickoff/>



プログラム

- 13:00 開会挨拶（広島大学大学院工学研究科 河原 能久 研究科長）
（広島大学工学部第一類 遠藤 暁 類長）
- 13:05 新一類の概要と特徴（土井 康明 教授）
- 13:20 新一類における産学共同研究の例
- ・「広島大学革新的ものづくり研究拠点活動の成果と今後の取り組み」（篠崎 賢二 教授）
 - ・「造船分野での共同研究と企業人材育成の事例」（安川 宏紀 教授）
 - ・「次世代自動車技術共同研究講座 ARC: Automotive Research Collaborative laboratory」（西田 恵哉 教授）
 - ・「産官学連携による中小造船の騒音対策」（竹澤 晃弘 准教授）
- 14:40 新一類のシーズ・研究設備と産業への適用事例
- ・新一類を構成する「機械システム」「輸送システム」「材料加工」「エネルギー変換」の各プログラムより、保有するシーズ・研究設備や産業への適用事例をご紹介
- 16:00 特別講演「広島大学とマツダ株式会社の連携のこれまでとこれから ～新一類への期待～」
（マツダ株式会社 素利 孝久 特別顧問）
- 16:40 パネルディスカッション「新一類の目指す方向性について
－産官学の協奏によるサステナブルな発展の実現のために－」
- 17:40 閉会挨拶（北村 充 教授）
- 18:00～20:00 交流会（参加費：5,000円）

主催：広島大学 工学部第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)

共催(順不同)：広島大学 革新的ものづくり研究拠点 (Hi-NoM), 広島大学 エネルギー超高度利用研究拠点 (HU-ACE)

後援(順不同)：ひろしま自動車産学官連携推進会議, (一社)日本機械学会中国四国支部, (一社)溶接学会中国支部
(公社)日本船舶海洋工学会西部支部, (公社)日本金属学会・日本鉄鋼協会中国四国支部

問合せ先：新一類発足記念シンポジウム実行委員会 (e-mail: eng1kickoff@ml.hiroshima-u.ac.jp)